



第57回日本小児歯科学会大会
57th Annual Conference of the Japanese Society of Pediatric Dentistry

市民公開講座

『子どもの〈問題〉に発達をみる』

講師

加藤 弘通 先生 北海道大学大学院
教育学研究院 准教授

会期

2019年6月9日(日) 16:00~17:00

会場

札幌コンベンションセンター 1階 特別会議場
札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1

入場
無料

定員
300名
(事前登録制)



<http://www.knt.co.jp/ec/2019/jspd57th/>

お問い合わせ先
(裏面をご参考ください)

近畿日本ツーリスト北海道 北海道DM支店 MICEセンター
FAX : 011-221-5491 または Email : s-convention-1@or.knt-h.co.jp



大会事務局

北海道大学大学院歯学研究院 小児・障害者歯科学教室内
〒060-8586 札幌市北区北13条西7丁目
大会長：八若 保孝 準備委員長：吉原 俊博

運営準備室

(株)近畿日本ツーリスト北海道 北海道DM支店 MICEセンター
〒060-0003 札幌市中央区北3条西2丁目 日通札幌ビル6階

後援：一般社団法人 北海道歯科医師会、一般社団法人 札幌歯科医師会、札幌市、全国小児歯科開業医会

第57回日本小児歯科学会大会 市民公開講座 参加申込みについて

市民公開講座へのご参加は**5月31日(金)までに**
E-mail・FAXにてお申込みください。

※申込みを受け付けた場合は特にご連絡いたしません。お送りいただいた申込書を会場にご持参ください。
なお、定員を超えた場合のみ、お申込みから10日以内にご連絡いたします。

申込み方法

《E-mailでのお申込みの場合》……s-convention-l@or.knt.co.jpに下記内容をご記載の上お申込みください。
《FAXでのお申込みの場合》………下記FAX申込書に必要事項を記載の上、FAXにてお申込みください。

FAX申込書 FAX 011-221-5491

締切日:5月31日(金)

■代表者の必要事項をご記入ください。

年 月 日

代表者のお名前	フリガナ	代表者のご住所	〒	-
	参加人数 計 名			
FAX番号		屋間に連絡可能な電話番号	TEL	

■代表者(上記)以外の参加者のお名前をご記入ください。

1	代表者	4	フリガナ
2		5	フリガナ
3		6	フリガナ

※個人情報保護法により、この目的以外での利用や第三者への提供はいたしません。

会場案内 札幌コンベンションセンター

札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1

地下鉄でお越しの方

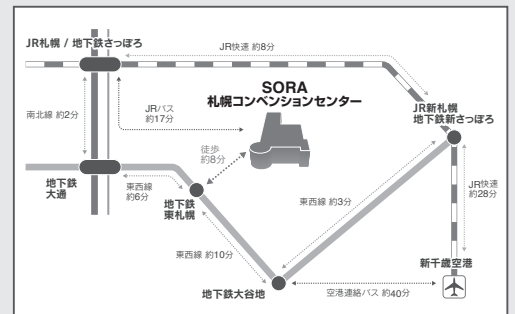
- 最寄駅:札幌市営地下鉄東西線「東札幌駅」
1番出口(大通り方面からお越しの場合)
2番出口(新さっぽろ方面からお越しの場合)
～徒歩約8分

お車でお越しの方

- 有料駐車場(第1平面・第2平面・第3立体駐車場)をご利用ください。
普通自動車の駐車料金は(2時間200円、以降30分につき100円)です。

バスでお越しの方

- JR札幌駅(札幌ターミナル)からJR北海道バス新札幌線[1-3系統]新札幌行きに乗り、バス停「札幌コンベンションセンター」下車～所要時間約20分
- JR札幌駅(札幌ターミナル)からJR北海道バス新札幌線[1系統]新札幌行きに乗り、バス停「中央1条1丁目」下車～所要時間約20分
(他、13系統、15系統、33系統バスが停車)



お問い合わせ先

株式会社近畿日本ツーリスト北海道
北海道DM支店 MICEセンター
TEL : 011-280-8855 FAX : 011-221-5491
E-mail : s-convention@or.knt-h.co.jp

北海道大学大学院教育学研究院

加藤 弘通



2004年中央大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得後退学
2004年常葉学園短期大学保育科専任講師
2008年静岡大学大学院教育学研究科准教授
2013年北海道大学大学院教育学研究院准教授 現在に至る

博士(心理学)
臨床心理士

子どもの〈問題〉に発達をみる

発達というと、なんとなく「子どもが良くなっていくこと」ととらえる人が多いと思います。したがって、子どもが問題を起こすと「発達がうまくいっていないのではないか」「発達に問題があるのではないかと考えられることが多いです。

しかし、実際に子どもの問題と関わっていると、発達がうまくいっていないから問題が起きるといよりも、子どもが発達しているからこそ、問題が起きている場合が多々あります。つまり、子どもの側は発達しているのに、大人の側がそれについていけず、不適切な対応をしてしまっている。それゆえ、子どもからすると、次の段階に進んでいるにもかかわらず、前の段階の関わり方をされて、イライラが募り、さまざまな問題が生じているということです。

したがって、発達心理学では、子どもが問題を起こしたとき、それを単に消したり、抑えたりすることよりも、その中にどんな「発達の兆し」が隠れているのか、またどんなふうに関われば、その力をより望ましい形で伸ばすことが可能なのかを考えることが重要になります。

本講座では、いじめや自殺、非行や反抗、抑うつといった思春期の問題を中心に、「なぜ思春期になるとそういう問題を起こすことが可能になるのか?」、「その背後には子どものどのような発達に関係しているのか?」という視点から、問題を起こせるようになる子どもの発達とはなにかということをも具体的なデータや事例を交えながら考えていきたいと思います。心理学という視点から、改めて「発達」を捉えなおす機会にさせていただけるとありがたいです。